

8 公務員への道

(1)「公務員の性格」

公務員は、法律によって「全体の奉仕者として公共の利益のために勤務する」と規定され、その任務はサービス行政や福祉の向上などで住民の幸福のために奉仕することです。したがって民間の企業とは違った職業観が要求されます。また、さまざまな服務上の制約を受けますが、身分や収入の保障がなされているのが特徴です。最近では、その安定性に引かれ公務員を目指す人が年々増え、高倍率の狭き門となっています。

(2)「公務員試験の性格」

公務員を目指す者は、「国家公務員」か「地方公務員」の採用試験を受験しなければなりません。平成 24 年から国家公務員は「一般職試験」と「専門職試験」に分かれて実施されています。試験期日が異なる職種は全て受験することは可能です。

「高卒程度」という文言からもわかるように、公務員試験は学歴に関係なく採用試験の成績だけで合否が判定されるという点を考えれば、平等な公開試験です。ただし、年齢制限があります。

基礎能力・適性(または専門)・作文試験による「第1次試験」と、面接による人物試験の「第2次試験」があり、第1次試験合格へのボーダーは 60～70%の正答率です。なおその際、基礎能力・適性・作文試験共に、満点の 35～50%程度に「基準点」と呼ばれる点が配分されており、いずれか一つでもそれに満たない場合は即不合格になります。

続いて第2次の面接では、1次合格者の約6割に合格が出ています。2次の合否については、1次試験の成績との総合判定ですが、国家公務員と地方公務員で総合判定の比率や、2次のみのリセット方式で判定する自治体など様々です。(公表されているところが多いので調べておきましょう。) 重視されるのは面接における人物そのものであることは知っておく必要があります。

①基礎能力試験

国家公務員一般職試験では 40 題、地方公務員で 50 題前後の問題が出題され、中学／高校の教科からの「知識分野」と、公務員試験独特の「知能分野」の2つで構成されています。受験生がまず戸惑うのが、この出題範囲の広さです。出題は、多肢選択方式による筆記試験です。

②適性試験

「正確さ」や「敏しょう性」などについて判定するもので、初級公務員の主な仕事は、転記・照合・集計・記録・文書整理などであり、こうした仕事の特質から「正確さ」・「敏しょう性」が要求されるからです。理屈より反復練習で慣れる必要があります。国家公務員一般職試験では、120 問 15 分です。

③専門試験

技術系の専門知識について判定するもので、国家公務員一般職試験の場合、多肢選択式で 100 題出題、40 題解答(1時間 40 分)、地方の場合は記述式を含むことがあります。

④作文試験

表現力や書く能力について判定するもので、2次試験の面接と連動しているケースもある。国家公務員一般職試験の場合6点満点で計算され基準点は3点です。

⑤人物試験(面接)

15～30 分ぐらいで、3名の面接官による個別面接で行なわれることが多く、受験者が前もって記入した面接カードに基づいて質問される形式が一般的です。国家公務員一般職試験では、A,B,C,D,Eの5段階に評価されD,Eがつくと不合格になります。

(3)「公務員を目指す上での注意点」

就職は、内定を受ければ必ずそこへ行かなければなりません。このため、民間企業の就職活動しながら公務員試験をかけ持ちするようなことはできません。公務員試験は、受験してから合格発表までの期間が非常に長く(9月～12月)、その間に、有力な民間企業の就職試験はほとんど終わってしまっています。

万が一不合格でも、その時点で求人が未充足である会社へ就職してもよいという覚悟のある人か、進学への進路変更ができる人、あるいはいわゆる浪人をしてでも公務員になることを目指す人以外は、公務員への道は選ばない方が無難です。

詳細な内容については、書物等でよく研究しておくことが重要です。

2022 年度採用試験日程(国家公務員・京都市職員のみ 2023 年度試験日程掲載)

	案内・申込	第1次試験	第2次試験
国家公務員 一般職試験	受験案内は 人事院の HP に掲載 2023 年5月8日(月)～ 申込(インターネットで) 6月 19 日(月) ～6月 28 日(水)	9月3日(日) 発表は 10 月5日(木)	10 月 11 日(水) ～ 20 日 (金) 発表は 11 月 14 日(火)
京都府職員 (初級)	受験案内は 2022 年7月 1 日(金) 申込(インターネット) 8月上旬～8月中旬	筆記試験 9月 25 日(日) 口述試験 10 月中旬	11 月上旬 ～11 月中旬 発表は 11 月下旬
京都府警	受験案内は	筆記試験	口述試験

(警察官B)	2022 年6月 22 日(水) ～ 申込は 7 月 1 日(金)～ 8 月 16 日(火)	9 月 18 日(日) 口述試験 体力試験 適性検査 発表は 11 月上旬	身体検査 11 月中旬～下旬 発表は 12 月中旬
京都市職員 (中級) (高卒程度)	受験案内は 2023 年6月 15 日(木) 申込は 8 月 10 日(木)～ 9 月 1 日(金)	9 月 24 日(日) 発表は 10 月中旬	個別面接 10 月下旬～ 11 月上旬 発表は 11 月中旬

(4)高卒程度で受験できる主な公務員の種類

①国家公務員

- ・一般職:事務、技術、農業、農業土木、林業、税務職員、刑務官、入国警備官、皇宮護衛官、航空保安大学校、海上保安学校、海上保安大学校、気象大学校
- ・特別職:裁判所一般職高卒、国会図書館一般職高卒、衆議院一般職高卒・衛視、参議院一般職高卒・衛視

②地方公務員

- ・都道府県職員:一般職(一般事務、学校事務、警察事務、交通巡視員、技術系職種等)
警察官
消防官(東京消防庁)
- ・市町村職員:一般職、消防士等

(5)試験から採用までの流れ

以下に 国家公務員一般職試験の場合を記載

(特に国家公務員一般職は申し込み締め切りが6月なので注意すること)

2023 年度分は、以下に記載、詳しくは、受験案内がホームページへ掲載されます。

人事院のホームページに5月8日(月)掲載

—参考—

(6月 19 日(月)～6 月 28 日(水)) 申込 申込はインターネットで



受験票を受け取る(メールで)



(9月3日) 第1次試験(基礎能力／適性／作文試験・・・事務系)
(基礎能力／専門試験・・・技術系)

↓

(10月5日) 第1次試験合格者発表(第1次合格者名簿記載)

| —————→不合格(進路変更)

↓合格

官庁合同説明会(平日)

↓

(10月11日～20日)(人事院が指定する1日)

第2次試験(人物試験)

↓

(11月14日) 最終合格者発表

| —————→不合格(進路変更)

↓合格

採用面接(最終合格発表の翌日から、各採用官庁が採用面接を実施します。面接は最終合格者発表後数日間に集中しています。)

↓ —————→不合格(進路変更)

採用内定(内定を受けることができるのは1官庁のみです)

↓

採用(残存者が出る場合もある。)